

## 営業の報告

### 当中間期の概況

国内営業における単体S P Kの売上ウエイトは94.9%です。営業車両の稼働率の低下と部品交換頻度の漸減傾向が続きました。付加価値の高い新商材の投入や販管費の低減努力などで収益志向を高めました。その結果、単体ベースでは2.7%の減収でしたが、増益を確保しました。

海外営業はアジア地域の売上が回復しましたが、中南米地域が昨年の反動で落ち込んだため、対前年比1.9%の減収でした。利益面では、付加価値の高い新商材を積極的に投入した効果で商品利益率が向上し、増益となりました。

工機営業は納入先の建機メーカーの増産が続きましたので、売上は好調でしたが、競争激化と在庫商品価値の厳格な見直しによる減額などにより、増収減益でした。

単体の全社ベースは売上高がほぼ横這いでしたが、収益体質が強化され、売上高営業利益率が前期比0.3ポイント改善し、4.0%になりました。連結ベースでも、子会社が高収益のため、利益率を0.2ポイント押し上げています。

### 全社経営データ

#### ①連結の業績

(単位：百万円)	
当中間期	
売上高	14,509
営業利益	616
経常利益	660
中間純利益	367

#### ②連結売上高セグメントデータ

(単位：百万円)	
当中間期	
国内営業部門	8,707
海外営業部門	4,594
工機営業部門	1,207
売上高	14,509

#### <単体の業績>

(単位：百万円、%)			
	当中間期	前中間期	対前中間期比
売上高	14,136	14,245	99.2
営業利益	562	515	109.3
経常利益	605	566	107.0
中間純利益	338	318	106.4

## 経営方針と見通し

社会的貢献を持続するために、「豊かに永続すること」これがS P Kの経営目的です。

### <方針>

- ① 「真の中堅企業」をめざします。
- ② 自動車補修市場の中で、得意とする機能パーツの販売に注力します。
- ③ 最大の経営資源である人材育成に努力します。
- ④ 伝統の「進取の気性」を維持し、開発・開拓に努めます。
- ⑤ 効率を追求し、資本や労働の生産性向上をめざします。

収益体質が強化されつつありますので、通期も増益が維持できると見えています。上期の1円増配に続いて、下期も1円増配し、通期で2円増配の32円配当をし、6期連続の増配を実現していきたいと考えています。

### <単体の業績見通し>

	通期見通し	前期実績	対前期比
売上高	28,700	28,414	101.0
営業利益	1,100	1,048	105.0
経常利益	1,200	1,141	105.2
当期純利益	670	638	105.0

### 下期の業績見通し

自動車補修マーケットの景況感の回復は国内のマクロより半年位遅れると見えています。海外営業もドル建ビジネスが10%程度とはいえ、円高の影響も危惧されますので、当社を取り巻く環境は依然として厳しいと認識しています。

そのような状況ではありますが、「原点回帰」「責任遂行」を念頭に人材を育成し、商品開発や販路開拓への努力を地道に積み重ねて、5%程度の増益をめざして参ります。

### 通期の見通し

#### <当連結の業績見通し>

(単位：百万円)	
通 期	
売上高	29,350
営業利益	1,200
経常利益	1,300
当期純利益	720

## 中間連結貸借対照表

当中間期より連結の数字です。

科 目	当中間期 平成15年9月30日現在
<b>資産の部</b>	
<b>流動資産</b>	<b>9,946</b>
現金及び預金	2,088
受取手形及び売掛金	5,735
たな卸資産	1,884
繰延税金資産	132
その他	122
貸倒引当金	△ 18
<b>固定資産</b>	<b>1,659</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>758</b>
建物	109
土地	619
その他	29
<b>無形固定資産</b>	<b>85</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>816</b>
投資有価証券	275
繰延税金資産	312
その他	319
貸倒引当金	△ 90
<b>資産合計</b>	<b>11,605</b>

科 目	当中間期 平成15年9月30日現在
<b>負債の部</b>	
<b>流動負債</b>	<b>3,702</b>
支払手形及び買掛金	2,926
未払金	173
未払費用	163
未払法人税等	307
その他	130
<b>固定負債</b>	<b>880</b>
退職給付引当金	552
役員退職慰労引当金	299
預り保証金	27
<b>負債合計</b>	<b>4,582</b>
<b>資本の部</b>	
<b>資本金</b>	<b>806</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>868</b>
<b>利益剰余金</b>	<b>5,297</b>
<b>株式等評価差額金</b>	<b>51</b>
自己株式	△ 0
<b>資本合計</b>	<b>7,023</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>11,605</b>

※当中間期より中間連結財務諸表を作成しているため、ご参考としての前期数値は記載しておりません。

## 中間連結損益計算書

当中間期より連結の数字です。

科 目	当中間期	
	平成15.4.1 から 平成15.9.30まで	
売上高	14,509	
売上原価	12,500	
販売費及び一般管理費	1,392	
<b>営業利益</b>	<b>616</b>	
営業外収益	72	
営業外費用	28	
<b>経常利益</b>	<b>660</b>	
特別利益	0	
特別損失	0	
<b>税金等調整前中間純利益</b>	<b>660</b>	
法人税、住民税及び事業税	309	
法人税等調整額	△ 16	
<b>中間純利益</b>	<b>367</b>	

## 中間連結剰余金計算書

当中間期より作成しております。

科 目	当中間期	
	平成15.4.1 から 平成15.9.30まで	
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	868	
資本剰余金中間期末残高	868	
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	5,029	
利益剰余金増加高		
中間純利益	367	367
利益剰余金減少高		
配当金	82	
役員賞与	17	99
利益剰余金中間期末残高	5,297	

## 中間連結C/F計算書

当中間期より連結の数字です。

項 目	当中間期		前中間期(単体)
	平成15.4.1 から 平成15.9.30まで		
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>316</b>		<b>△ 140</b>
税金等調整前中間純利益	660		567
減価償却費	9		9
連結調整勘定償却額	8		—
引当金の増減額(減少△)	△ 14		△ 8
投資有価証券評価損	0		1
売上債権の増減額(増加△)	△ 277		△ 273
たな卸資産の増減額(増加△)	188		95
仕入債務の増減額(減少△)	51		△ 186
役員賞与の支払額	△ 17		△ 17
法人税等の支払額	△ 271		△ 223
その他	△ 22		△ 105
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 117</b>		<b>△ 3</b>
有形固定資産の取得による支出	△ 3		△ 3
新規連結子会社株式取得による支出	△ 124		—
貸付金の回収による収入	0		1
その他	10		△ 2
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 82</b>		<b>△ 76</b>
配当金の支払額	△ 82		△ 76
<b>IV 現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>△ 0</b>		<b>△ 0</b>
<b>V 現金及び現金同等物の増減額(減少△)</b>	<b>116</b>		<b>△ 221</b>
<b>VI 現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>1,972</b>		<b>1,531</b>
<b>VII 現金及び現金同等物の中間期末残高</b>	<b>2,088</b>		<b>1,310</b>